



篠小だより

令和4年7月15日

夏休み号

〒222-0022 横浜市港北区篠原東三丁目27番1号 Tel.045-401-9532 fax045-431-9538
横浜市立篠原小学校 <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/shinohara/>

君しにたまふことなかれ

校長 松久保 伸子

今でもあるのでしょうか。東名高速道路の川崎インターチェンジの出口に、詩人・与謝野晶子が日露戦争に出征した弟を想って書いた詩の、冒頭の一部「君しにたまふことなかれ」が掲示板に大きく書かれていました。料金所を出たドライバーさんはこの掲示板を見て、ぎょっとしたことでしょう。日露戦争と意味合はずいぶん異なりますが、運転に気をつけてよ、という意味に見て取れます。

21日からはみんなが楽しみにしている夏休みを迎えます。4月から頑張ってきた子どもも保護者様も教職員も、休養を取ることができます。いえいえお子さんが学校に行かないので、むしろ大変という方も多いのかもしれませんが、夏休みはお子さんが家庭や地域に戻る時期でもあります。どうぞ授業が毎日ある日常では経験できないことを、味わってきてほしいと思います。そして8月29日にはまた元気に再会したいと思います。しかしながら、この10年ほど中学生や小学生の痛ましい自死のニュースが出てくるのが、この夏休みなのです。特に夏休みが明ける直前・直後は要注意の期間と言われています。友達関係や将来のことなどに悩み、学校再開が重く心にのしかかるのでしょうか。なんともなんとも悲しいことです。

横浜市も黙ってこの状況を見ているわけではありません。「SOSの出し方」という学習のひな型もっています。心が苦しいときには身近な人にその気持ちを話して少しでも楽になりましょう、という学習です。学習の流れが出来上がっているので、すぐに教室で授業を行うことができます。私は6、7年ほど前からこの学習を高学年児童に行うようになりました。毎年行うので、だんだん自分の色が出てきて、もともと出来上がっている学習の形から大きく変わってはいるのですが、伝えたいことは一緒です。「心が苦しくなったときには、信頼できる誰かに相談しよう。」です。子どもたちは思いの外、相談してもいいの？一人で我慢すればいいのでは？と考えています。でも心が苦しいまま放っておくと、さらに苦しくなり病気になったり、最悪の場合自死してしまったりすることを伝えると、この学習の必要性を感じてくれます。誰でも心が苦しくなるときがある。今苦しくなくても、いつかそうなるときがあるかもしれない。だから自分なりの対応方法をさぐり、友達が考える対応方法も聞いて参考にし、信頼できる誰かに相談する方法も自分を守るカードとしてもっておく。この授業は続けたいなあと思っていたところ、今年度は児童支援専任が授業を引き継いでくれましたので、とてもうれしく思っています。



1年生が育てたあさがおの花が咲きました。

「君しにたまふことなかれ」かわいい篠原の子どもたちに似合わない言葉ですが、いつだれが心苦しく思っているかわかりません。人に苦しさを見せないようにしているかもしれません。子どもたちが家庭や地域に戻る夏休み。どうぞ子どもたちを今まで同様見守ってください。そして何か心配な変化がありましたら、相談にのってあげてください。その時は学校にもご連絡ください。では8月29日元気に再会しましょう。